



チャの直がけ被覆栽培による炭疽病に対する抑制効果

静岡県農林技術研究所 茶業研究センター 市原 みのる すぎき みきひこ
いちはら 実* 鈴木 幹彦*

はじめに

近年、国内外において抹茶の需要が高まっており、静岡県では特に海外での需要拡大が見込まれる有機栽培の抹茶の生産を推進している（静岡県，2022）。抹茶の原料となるてん茶は、チャ（*Camellia sinensis* (L.) Kuntze）の新芽生育期に被覆資材により一定期間遮光して栽培された茶葉を用いて製造される。本県におけるチャの被覆栽培は、化学繊維資材を用いた直がけ被覆（茶樹の樹冠面に被覆資材を直接掛ける被覆方法，図-1）が一般的となっている（小林ら，2011）。

てん茶生産の振興のためには、被覆条件下における病害虫発生の特徴を明らかにし、被覆栽培に適した病害虫

防除技術の構築が必須である。被覆条件下では気温や光強度（小林ら，2011）、紫外線強度（木村・神田，2013）等が無被覆条件下とは異なるため、病害虫の発生や被害が無被覆条件と異なる可能性がある。化学繊維資材による直がけ被覆が各種害虫の発生に及ぼす影響については評価されている（吉田ら，2020）ものの、チャ病害の発生程度に及ぼす影響は不明である。特にチャの最重要病害である炭疽病（病原菌：*Discula theae-sinensis* (I. Miyake) Moriwaki & Toy. Sato）の発生程度が、被覆の有無によってどの程度異なるのかを把握しておく必要がある。チャ炭疽病は主に二番茶期以降に発生し、チャの落葉や樹勢低下などの被害を引き起こす（図-2）。本県で最も栽培面積の大きいチャ品種「やぶきた」は本病に罹病性で



図-1 化学繊維資材を用いた直がけ被覆栽培茶園の様子（静岡県島田市）

Suppressive effects of direct tea plant covering against tea anthracnose. By Minoru ICHIHARA and Mikihiko SUZUKI

（キーワード：チャ炭疽病，*Discula theae-sinensis*，直がけ被覆栽培，銅水和剤）

*現所属：静岡県農林技術研究所